

編集方針

編集方針

日立の統合報告書は、ステークホルダーの皆さまに日立のビジネスモデルへのご理解を一層深めていただくとともに、対話を通じ、さらなる企業価値の向上と価値協創への好循環につなげていくことを目的に制作しています。2026年版では、経営計画「Inspire 2027」の戦略を軸に、グローバルトップのデジタル・インフラストラクチャー企業をめざし、持続的な成長とハーモナイズドソサエティの実現に貢献していく日立の経営戦略・施策について要点を絞って説明しています。なお、編集にあたっては、IFRS財団が推奨する「国際統合報告フレームワーク」、経済産業省の「価値協創ガイダンス」などを参考にしています。

報告対象範囲など

対象期間：2025年度

(2025年4月1日～2026年3月31日)

※2026年4月以降の活動内容などを含む。

対象組織：株式会社日立製作所および連結子会社

会計基準：国際財務報告基準 (IFRS) 準拠

将来の見通しに関する注意事項

本報告書における当社の今後の計画、見通し、戦略などの将来予想に関する記述は、当社が開示時点で合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などの結果は見通しと大きく異なることがあります。

※記載の会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

制作体制



統合報告書2026でお伝えしたいこと

POINT 01

持続的な成長を支える強固な収益基盤

世界中で社会インフラの革新ニーズが高まる中、その潮流を捉えた4つの主力事業が着実に成長しています。2025年度は、不確実な事業環境においても、利益・コアFCF・ROIC、そして受注バックログが過去最高を更新し、持続的な成長を支える強固な収益基盤を構築しています。

POINT 02

AIがもたらすさらなる成長機会

急拡大するAI市場が追い風となり、日立の成長を加速させます。116年にわたり社会インフラを支える中で培ったIT×OT×プロダクトの技術や知見を掛け合わせ、社会インフラへのAIの安全な実装を実現することで、Lumada事業を拡大し、さらなる成長をめざします。

POINT 03

成長への飽くなき挑戦と規律ある経営の両立

激変する環境に対応するため、経営のスピードと質を向上します。機会を迅速に成長へつなげるとともに、バランスの取れたキャピタルアロケーション、高度なリスクマネジメント、実効性の高いガバナンスにより、持続的な成長を実現します。

情報開示体系

日立は、コーポレートレポーティングとして、統合報告書、サステナビリティレポート、有価証券報告書の3媒体を公開しており、内容（定量情報～戦略情報）や時間軸（実績～中長期視点）で開示を棲み分けています。特に、同日公開している統合報告書とサステナビリティレポートは、併せてお読みいただくことで、経営戦略に加えサステナビリティの取り組み進捗・データをご確認いただけます。その他、補完情報として当社の各種Webサイトもぜひご覧ください。

